

## 今庄宿プロジェクト第1回南越前町今庄宿観光まちなみ推進会議

### 議事要旨

日時：平成25年6月17日(月)午後7時30分～

場所：昭和会館3階 大ホール

#### 出席者

福井大学大学院・野嶋教授、住民代表者会12名、南越前町地域おこし協力隊・荒木氏  
福井県観光営業部・新高速交通活用推進室、南越前町企画財政課

## 1 第1回全体会について

### (1) 各部会からの報告

#### 【景観部会】

- ・6月20日に開催する次回の部会では、これからの議論に役立つ幾つかの宿場町の事例を紹介していきたい。また、空家対策部会と合同で6月23日にまちあるきを実施し、第3回に意見交換する流れにしたいと考えている。アイデアがあればお願いしたい。

#### 【店舗部会】

- ・店舗部会は、既に6月13日に第2回部会を開催した。第2回部会では、第1回全体会の意見の掘り下げを中心に行ったので、まだ具体的に店舗に絞った話し合いにはなっていない。
- ・歴史ある街並みやそばをはじめとした食等の今ある資源を主体的に発見していく仕組みが必要という意見や、生活文化に根差したまちづくりの視点が重要という意見があった。また、今庄宿とは何か、このプロジェクト全体のコンセプトは何か、誰のためにやるのかといった意見があった。意識を高めるために、区民を集めて説明会をもったらどうかという意見もあった。
- ・現実的に、今庄では若者が定住せず、子どもの数が少なくなっている。子どもだけでなく、親の意識も変えていかないといけない。今の時代は、住む場所を選ぶ時代である。今庄がどうしたら選ばれる地域になるのか、住宅、産業、景観、魅力、情報発信など多方面から検討していく必要がある。

#### 【歴史部会】

- ・歴史部会のまとめは3ページになるが、他の部会からも歴史に関する意見を多く頂いている。今庄宿のプロジェクトでは歴史がいろんな意味でベースになるのではないかと。住民も今庄の歴史を理解していない。部会では、各部会の検討のベースになるものをまとめていきたい。
- ・宿場町に加えて、鉄道遺産も大きな価値がある。今庄の顔として認識し、活用していきたい。

#### 【誘客部会】

- ・誘客部会では、歴史的な建物、神社やお寺、酒など、観光資源に関する意見が多かった。商品化されていない資源もある一方で、観光地化していないので、商品が少ないという意見もあった。
- ・人口が減少し、空家も多くなり、生活が不便なところも出てきた。
- ・そば、特産品、酒蔵などを連携して活用していくアイデアがあった。休憩するところや宿泊所が少ないという意見もあった。

#### 【空家対策部会】

- ・空家対策部会では、6月23日にまちあるきをすることになったが、今庄には自然や歴史的な街並みをはじめ、空家になっているところでも素晴らしいところがたくさんある。旧国鉄の遺産も多くあり、全体的に、人工的なものではなく生活に密着した自然な形で街並みが残っている。

- ・地元の人が今庄の良さを知らない、駅前が観光を意識していない、観光目的としてのものはあるが、より充実した良いものが少ないという意見があった。
- ・空家や空き地の具体的な活用については、自然の鮎をそのまま食べられる地産地消のお店など、量よりも質で勝負すべきとの意見があった。生活に活用するのか、観光に活用するのか、どちらも大切で、若い人が住めるような成功事例をつくっていくことが大切だという意見もあった。
- ・歴史などを見ながら、一つひとつの空家や空き地を丁寧にプロデュースするというアイデアもあった。また、お寺も空家の対象に含めるべきであり、むしろ宝物として捉えるという意見があった。空家や空き地をいくつか連動して活用していくことが大切である。

### 【野嶋委員長】

- ・第1回全体会は非常に盛り上がった。このプロジェクトは、住民の方が参加することが大切であり、いろんな人が参加する機会にしたい。5つのテーマも今庄宿にピッタリで、プロジェクトが終わった後もまちづくりが続いていくように、人づくりやネットワークづくりもしっかりとやっていきたい。今が大切な時期である。
- ・これだけ住民参加のプロセスでつくっていく取り組みはあまり事例がなく、町全体で作っていくこともあまり事例がない。

### (2) 意見交換

- ・先日の部会や全体会において、観光がメインなのか、住民の生活がメインなのかという議論があった。空家対策部会の発表でもあったが、両立させることが大切であり、店舗部会や誘客部会では観光客に絞らないで、移住など訪れる人全てをお客さんとして見て検討したほうが良い。そのほうが議論しやすくなると思う。
- ・誘客部会の説明にもあったとおり、生活や文化が大切である。
- ・今庄宿には空家や空き地が非常に多くなってきて、今回のプロジェクトで部会になった。空家対策部会でもどのように活用するかを検討していくと思うが、人口の問題は切実だと思う。いくら綺麗なまちをつくっても、人が少なくなってしまうたら、まちが死んでしまう。
- ・今庄では、こんな住み方ができるという提案をして頂きたい。
- ・観光客目線なのか、住民目線なのか、そこの境界はないと考えている。よく県外の人から問い合わせがあるのは、地元の人で行列ができていくところである。県外からの観光客などは、地元の人が良いというところは外から来た人にとっても良いと考えている。その逆はおそらくない。地元の人自慢するのを県外の人も求めている。
- ・バスなど、県外の人が分かりやすい案内は、地元の人にとっても分かりやすい。そのような視点は必要だと思う。
- ・木ノ芽カフェがオープンして3ヶ月くらいになる。地元の人も来るが、観光客もよく来ている。人の流れが変わった。人が来ているところを研究することも大切である。店舗部会において、このような視点を取り入れて分析して欲しい。
- ・自分のできることからやっていきたいと考えている。一つは、このプロジェクトのことを住民の人からよく聞かれるので、今庄の自慢できるところを探していると答えて、情報発信している。もう一つは、自分のお店でできることを考えている。
- ・最初の頃は早く進めないといけないと焦っていたが、ここ何回かの意見交換で、今がとても大事な時期だと思い直した。自分にできることを考え、婦人会や同窓会の場で、堅苦しくならず、広く意見を集めていきたい。今はその声掛けをして、種を蒔いている。女性の立場から意見を伝えてい

きたい。

- ・観光地でうまくいっていないところは、急に進化してしまったために住民の人がついてこられていないのではないかと考える。デザインとかまちづくりの進化も、環境上、生活上そうせざるを得なかったから進化をするといったほうが良いのではないかと。急激に進化すると非常に危険であり、じわじわと進化していく必要がある。住民がついてこられないものであると意味がない。
- ・藤倉山のハイキングだと思うが、駅前にマイクロバスが来ることがある。しかし、どこにも行くところがない。そば屋が2軒だけで、駅前で食事をするところがない。本当に駅前には何もない。
- ・店舗部会や誘客部会で検討して頂き、少し休めるところ、特に、用事がなくても集まれる場所づくりなどを部会から発信して頂きたい。
- ・部会でも駅前が寂しいという意見があった。そばに限らず、幅広く検討していく必要がある。
- ・空家対策部会が次回まちあるきをするが、住民代表者会でもまちあるきをしたほうが良い。会議室で意見交換するのも大切であるが、現場を見て、そこで意見交換したほうが良いアイデアが出る。
- ・まちづくりの基本は歩くことである。各部会でも是非、検討して頂きたい。
- ・まち歩きは、昼も夜もやったほうが良い。夜暗いところもたくさんある。
- ・閉じた部屋の中では、なかなか外に伝わらない。まだまだ他人事を感じている人もいる。住民の1割と言うと大げさかもしれないが、いろんな視点で、みんなに関わりを持って頂きたい。第2回全体会の前後で是非、まちあるきを実現したい。

## 2 今後の進め方について

- ・今庄宿の歴史は深く、部会の検討にも参考になることが多い。歴史をまとめた本はあるが、なかなか見ない。歴史の事象や年表のようなものをまとめたい。
- ・歴史をマップに落とせないかと考えている。それを踏まえて各部会が検討することで、取り組みに深みが出る。
- ・昔の人が拘っている場所を地図に落としたい。まちあるきでそのようなところを記録して頂けるとありがたい。
- ・羽根曾踊りの歌詞にも、休憩する場所や北国街道の旅人の様子に関する内容があり、参考になる。歴史部会の中で検討して頂ければ、私たちにとっても勉強になる。
- ・小学校や中学校で、既に教材として地元の歴史を活用しているかもしれないが、そうしたところとも連携していけると良い。
- ・例えば、お堂などは町誌や村誌に載っていない。いろんな人に聞かないといわれが分からない。みなさんと情報を共有しながら進めていきたい。

## 3 情報集約・発信について

- ・誰が編集して、どのように発行するか。具体的ところが問題である。ホームページだけでは住民になかなか伝わらない。
- ・ホームページと広報紙への掲載が一番無理なくできる。ケーブルテレビもやりやすい方法ではある。かわら版は誰がするのかという問題があり、もう少し先にして、まず今の取り組みを知ってもらうというところから始めることも考えられる。

- ・いずれにしても遅くなるとタイムラグが発生するため、次回の代表者会で意見交換したい。
- ・柔らかいイメージのものを発信したほうが良い。
- ・手書き風の文章や写真が良い。
- ・情報発信の問題は非常に重要だと考えている。誰が書くのかという問題はあるが、紙だけではないと思っている。学生が歩くのも一つの情報発信である。我々も外に出て、住民に見える形で浸透させていきたい。